

ダイバーシティリレーエッセイ～様々なひとの多様な視点～

子どもの成長とダイバーシティ
Children's growth and diversity

黒崎 友仁

本投稿では性別や国籍などの特定の属性ではなく、一人一人の「個性」の多様性について、子どもの成長を通して感じたことを紹介します。

私は6歳および3歳の子どもをもつ37歳の日本人男性です。私が育ってきた環境では、学校および職場において多様性ではなく画一性が求められる教育や価値観が主流だったと感じています。それは過去の時代背景を踏まえると必然的であったとも認識しています。一方で、近年は多様性が重要視されるようになり、戸惑いを感じておられる社会人の方も少なくないと思います。従来は「前例や周囲と同じように行動すべし」「組織や人からの要請には素直に従うべし」ということを強く求められていたのに、近年は正反対に「今までと同じ、周囲と同じことをしては組織も個人も生きていけない」「組織や人から要請されたことを頑張るだけでは不十分」と問題視されています。現在さまざまな組織や個人が新たな環境に適應すべく変革の努力をしているなかで、次の世代を担う子どもたちはどのように成長しているのかを覗いてみました。

特に私の記憶に残っているエピソードを2つご紹介します。1つ目は、人は生まれつき多様であると感じたエピソードです。以前TV番組で評論家の方が「アメリカの学生は先生の問いかけにどんどん挙手して発言するが、日本の学生はあまり発言しないのでよろしくない」と指摘していました。しかし、先日小学1年生になった第1子の参観日に、多くの小学生が我こそはと挙手をして活き活きと発言していました。おそらく学年が上がるにつれて国民性や画一性がインストールされていくのだろうと感じました。2つ目は、未就学児の時点でも画一性のインストールが始まっていると感じたエピソードです。第1子の幼稚園の卒園式に参加した際に、最後に「小学校でがんばりたいこと」を宣言するシーンがありました。園児の宣言を聞いていると、なんと半分以上が「さんすう・こくごなどの勉強をがんばりたい」と宣言していました。まださんすうもこくごも習っていないはずの園児から50%以上もの支持を獲得するのは、多様性の観点から不自然ではないかと感じました。おそらく親や周囲の方から「小学校では勉強を頑張るべし」という価値観を受け取ったものと推察します。その価値観に画一的に従ってきた我々が現在苦勞していることを鑑みると、子どもたちが勉強も含む多様な選択肢をもてる環境を提供する努力を続けたいと密かに決意しました。



図 個性的なアルミホイル作品

新天地で見たもの
The view in a new world

寺田 佳織

9年勤めた工場を離れて、転居先の近隣の中学校でお世話になっている話をご紹介します。

私は2010年に神戸製鋼所に入社し、栃木県の真岡製造所でアルミ板材の技術開発に取り組んできました。2018年に神奈川県厚木市に住む夫と別居婚をし、2019年より弊社独自の「キャリア継続休職制度」を利用しました。この制度を利用すると、別居婚の解消や配偶者の転勤等の帯同のために最長3年間の休職が可能となります。

休職開始後は厚木市に転居し、女性のキャリアや理系女子に関する本を30冊ほど読みました。その結果、女性技術者の卵である理系の女子大学生が少ない理由の1つが「中学・高校で理系の女性教員が少なく、女子中高生が理系女性のロールモデルに出会う機会に乏しいからでは？」と考えました。そこで、大学時代に取得した教員免許を生かして、2019年11月から2021年7月まで厚木市立相川中学校で理科の実験補助、机間指導等の学習支援ボランティアをしました。公立中学校の生徒たちは習熟度のばらつきが大きいため、個々に応じた助言が必要です。それらの助言が功を奏し、生徒たちの理解や興味関心を引き出せたときの充実感は格別です。また、理科教員は全員男性だったので、私は1つのロールモデルになったと思います。

休職3年目の2021年9月に第1子を出産しました。弊社では最長3年間の育児休業取得が可能で、私は3年間取得の予定です。仕事復帰の日に備えて、2022年11月より子どもを保育園の一時保育に預け、中学校での学習支援ボランティアに復帰しました。

中学校の職員室で過ごすなかで、市内の小中学校に女性管理職（校長・教頭）が少ないことに気づきました。弊社の女性管理職の割合は2.8%（2021年度）ですが、公立学校では22.3%（2022年）です。公立学校では1955年に教育法で産休育休代替教員の確保が定められ、産休育休を取得しやすい風土があります。また、教員は転居を伴う異動が少なく、地元出身者が8割を占めます。これらは、女性管理職率増を検討する職場にとって1つのヒントになるかもしれません。

休職制度の活用で、私は新たな場所で経験を積み、視野を広げることができました。軽金属学会でまたお会いできる日を楽しみにしています。最後に、私の希望を理解し支えてくれている家族と皆様へ、心より感謝を申し上げます。



授業中の机間指導
(相川中学校HPより)